

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに回復しつつある」

項目	前回（5年7月判断）	今回（5年10月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→

（注）5年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、外出関連消費が好調なことや、猛暑による夏物商品の需要の増加により、緩やかに回復しつつある。生産活動は、海外向けの需要が回復しないことなどから、足踏みの状況にある。雇用情勢は、持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（5年7月判断）	今回（5年10月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→
生産活動	足踏みの状況にある	足踏みの状況にある	→
雇用情勢	持ち直している	持ち直している	→
設備投資	5年度は前年度を上回る見込み	5年度は前年度を上回る見込み	→
企業収益	5年度は減益見込み	5年度は減益見込み	→
企業の景況感	「上昇・下降」が拮抗している	「上昇」超となっている	↗
住宅建設	前年を下回る	前年を下回る	→
輸出	前年を上回る	前年を下回る	↘

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

業態別にみると、ホームセンター販売は、園芸用品などが低調であり、前年を下回っている。スーパー販売、ドラッグストア販売は、外出関連用品などが好調であり、前年を上回っている。乗用車販売（新車登録・届出台数）は、普通乗用車、小型乗用車、軽乗用車いずれも前年を上回っている。このように、個人消費は、全体では、緩やかに回復しつつある。

（主なヒアリング結果）

- 酷暑の影響により、屋外作業で使用する園芸用品や農業資材の売上が低調であった。（ホームセンター）
- 外出機運の高まりからトラベル関連商品や水着などが好調であった。帰省の増加によりお土産需要が増加したほか、刺身や寿司、オードブルも好調に推移した。（スーパー）
- 外出機会の増加により、化粧品や日焼け止めなどの需要が大きく増えている。猛暑の影響で、制汗シートや飲料品の需要も大きく増えた。（ドラッグストア）
- 半導体不足の緩和により完成車メーカーからの供給が増えたことから、納車待ちの状況が解消されつつあり、登録台数が前年を上回っている。（自動車販売）
- 新型コロナウイルスが5類に移行して初めての夏休みということもあり、観光需要が活発であった。外国人観光客も少しずつ見かけられるようになっている。（旅館組合）

■ 生産活動 「足踏みの状況にある」

汎用・生産用・業務用機械は、EV 向けの需要が堅調であることなどから、増加している。電気機械、鉄鋼は、自動車向けの生産回復などから、増加している。一方、化学は、海外向けの需要が回復しないことなどから、減少している。輸送機械は、台風の影響による工場停止などから減少している。このように、生産活動は、全体では、足踏みの状況にある。

- 国内外のEV 需要の高まりを受け、EV 向けの製造装置の受注が増加している。（生産用機械）
- 半導体不足の影響が緩和されてきたことにより、自動車メーカーの生産が回復していることから、自動車向けの生産量が増加している。（電気機械）
- 海外向けの需要が回復していないものの、国内向けは、半導体不足の影響が緩和されてきたことにより、自動車向けの生産量が増加している。（鉄鋼）
- 建設需要の低迷が続いており、海外インフラ向けで生産量は減少している。（化学）
- 半導体不足の影響が緩和されつつあることから、生産は増加傾向であるものの、台風の影響で工場を停止したほか、足元では新旧モデルの生産切替があったことから、生産量が減少している。（輸送機械）

■ 雇用情勢 「持ち直している」

有効求人倍率はおおむね横ばいで推移しており、新規求人数は底堅く推移していることなどから、持ち直している。

- エンジニア部門では人手不足の状況が続いている。様々な業種や業界で専門知識・技術を持った人材の奪い合いとなっており、人材確保は引き続き厳しい。（情報通信機械）
- 10月に最低賃金が上がるため、収益面で厳しい状況。今後はなるべく人手がかからないよう、清掃ロボットの試験導入を行っている。（小売）
- 若い人材を集めるために社員寮を改築するなど、企業が求人に向けた努力をしているが、人がなかなか集まらないという声が聞かれている。（公的機関）

- 設備投資 「5年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年7-9月期
 - 製造業では、「その他製造業」などで減少するものの、「自動車」、「生産用機械」などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。
 - 非製造業では、「小売」などで減少するものの、「運輸、郵便」、「金融・保険」などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

- 新型車向けの設備投資を実施。(自動車)
- 需要の増加に対応するための物流拠点整備を実施。(運輸、郵便)

- 企業収益 「5年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年7-9月期
 - 製造業では、「パルプ・紙」、「自動車」などで増益となるものの、「鉄鋼」、「情報通信機械」などで減益となることから、全体では減益見込みとなっている。
 - 非製造業(除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」)では、「医療・教育」、「建設」などで増益となるものの、「学術研究、専門・技術サービス」、「運輸、郵便」などで減益となることから、全体では減益見込みとなっている。
- 企業の景況感 「『上昇』超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年7-9月期
 - 企業の景況判断BSIは、「上昇」超となっている。なお、先行きは「上昇」超幅が拡大する見通しとなっている。
- 住宅建設 「前年を下回る」
 - 新設住宅着工戸数で見ると、給与住宅が増加しているものの、貸家、持家などが減少していることから、前年を下回っている。
- 輸出 「前年を下回る」
 - 輸出(円ベース)は、自動車などが増加しているものの、石油製品、鉄鋼などが減少していることから、前年を下回っている。地域別では、西欧などで増加しているものの、アジアなどで減少している。
なお、輸入(円ベース)は、原油及び粗油、石炭などが減少していることから、前年を下回っている。地域別では、中東、大洋州などで減少している。

3. 各県の総括判断

	前回(5年7月判断)	今回(5年10月判断)	前回比較	総括判断の要点
広島県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡	個人消費は、外出関連消費が好調なことや、猛暑による夏物商品の需要の増加により、緩やかに回復しつつある。生産活動は、自動車向けの生産回復などから、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直している。
鳥取県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、持ち直しに向けた動きに一服感がみられる。雇用情勢は、横ばいの状況にある。
島根県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は持ち直している。生産活動は弱含んでいる。雇用情勢は持ち直している。
岡山県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡	個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
山口県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡	個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、持ち直している。